

つながろう！絆・連合



発行：連合（総合組織局・連帯活動局）

電話 03-5295-0513 FAX 03-5295-0547 renai@sv.rengo-net.or.jp

日本労働組合総連合会（連合） <http://www.jtuc-rengo.or.jp/>

〈第6弾〉
大阪→
宮城へ

東北の子ども応援わんぱくプロジェクト

「東北の子ども応援わんぱくプロジェクト」、第6弾は11月22日から24日までの日程で、18人の大阪の子どもたちが宮城の石巻を訪問、宮城の子どもたち27人とあわせて、45人の子どもたちが参加しました。

一日目の22日、仙台空港に到着した大阪の子どもたちは、最初のプログラムとして、石巻と女川の被災地を訪問しました。「がんばろう！石巻」の看板を目の前に、連合宮城のスタッフから当時の様子について説明を受けながら、犠牲になられた方々に手を合わせました。女川では、今でも残る被災の傷跡を目の当たりにしました。次に、津波の被害から復旧した「石ノ森萬画館」を見学して、セル画作成体験やアニメの中に入ったかのような疑似体験など、アニメを通じて子ども同士のみならず、連合のスタッフたちとも楽しい時間を過ごしました。

二日目、宮城の子どもたちが合流、大阪の子どもたちと再会を果たし、まず「鐘崎笹かま館」を見学しました。ここでは、かまぼこ工場の見学、笹かま作り、七夕飾り作りを体験しました。その後、大阪の子どもたちが宿泊する松島の旅館で、ゲームや労働組合クイズ等の交流を通して楽しく過ごしました。なお、この交流会には古賀連合会長にも参加いただきました。その後、宮城の子どもたちは帰途に就き、大阪の子どもたちは防災教室として、被災地の当時の状況を映像と通して観て、震災の甚大さを改めて知ったり、連合宮城のスタッフから経験談を話してもらったりして、災害や防災に関する知識を学びました。

最終日の三日目、旅館を後にした子どもたちは、松島栈橋から日本三景の一つである松島を遊覧船で観光した後、仙台空港から大阪への帰途に就きました。

2014年7月より展開してきた「連合東北の子ども応援わんぱくプロジェクト」ですが、運営をしてくださった地方連合会の皆様、受け入れ先でご協力をいただきました構成組織の組合員の皆様、他関係する皆様のおかげで、無事終わることが出来ました。心より御礼申し上げます。大震災の実態、日頃からの防災の取り組み、そして友達との交流を通じて深めた「絆」・・・子どもたちにはたくさんのお話を学んでもらえたと思います。子どもたちを送り出してくださったご家族の皆様、プロジェクトへのご理解・ご協力、本当にありがとうございます。



再会を果たした大阪と宮城の子どもたち
(鐘崎笹かま館にて、11月23日)

～子どもたちの3日間～

3日間の主なスケジュール

- 1日目：大阪の子どもたち、伊丹空港から仙台空港へ。
被災地（石巻、女川）を見学、石ノ森萬画館見学
- 2日目：鐘崎笹かま館見学（かまぼこ作り、工場見学、七夕飾り作り）、交流会、防災教育
- 3日目：大阪の子どもたちのみ、遊覧船で松島観光



石巻の被災地を訪問。「がんばろう!石巻」の看板の前で、連合宮城のスタッフから説明を受けた後、犠牲になられた方々に手を合わせました。



女川の被災地も訪問。津波でのみ込まれた町もだいぶ整地が進んできましたが、まだ建物は少なく、倒壊した建物がまだ残されていました。



石ノ森萬画館前で。子どもたちとスタッフがアニメを通じて世代を超え楽しく過ごしました。古いアニメを知っている子が多かったのは意外でした。



大阪の子どもたちと宮城の子どもたちの8月以来の再会。友達に久しぶりに会えてみんなとても嬉しそうでした。



かまぼこ作り体験。みんな上手に出来ました。作る時は時間がかかりましたが、食べる時は一瞬でした・・・。



宮城といえば七夕も有名。飾り付けを体験しました。みんなセンスがよく、綺麗に作ることが出来ました。



ゲームと労働組合クイズで盛り上がりしました。競争要素が入るとテンションがすぐ最高潮になる子どもたち。



防災教室の後は、「防災かるた」を使って勉強したことを復習。防災とその意識の大切さを学びました。



最終日、松島を遊覧船でクルーズ。天気にも恵まれました。紅葉もきれいでした。

本ニュースは、全国の皆さんの声をベースに発行していきます。「こんな取り組みしているよ」「今、現地はこうなっている」などの声や写真をぜひお寄せください。お待ちしております！

連合連帯活動局 TEL:03-5295-0513/FAX:03-5295-0547/メール:rentai@sv.rengo-net.or.jp